

夜間津波を想定
高台へ避難訓練 高
南海トラフ警戒
南海トラフ巨大地震で最
大34分の津波被害が予測さ
れている高知県黒潮町で20
日夜、夜間の津波襲来を想
定した避難誘導実験があ

り、住民約100人が、
小雨が降る暗闇の中、ため
込んだ光を発光する「蓄光
材」の誘導標識を手掛か
りに、階段で高台に避難



夜間の津波襲来を想定した
避難誘導実験を終え、アン
ケートに記入する住民ら
20日夜、高知県黒潮町

した。
実験は、土木学会で災害
時の避難誘導を研究する小
委員会などが、夜や停電時
に階段を上る際の必要な設
備を確認するため、同町の
佐賀漁港近くで行った。
計53段の避難階段を①手
すりや一段一段の高さ、階
段の角の位置を蓄光材で示
したゾーン②一段ごとの高
さや角の位置だけを示すゾ
ーン③誘導物を何も設置し
ないゾーンに3分割し、
使いやすさなどのアンケー
トもした。

今回使用の蓄光材は、日
没後12時間経過した後も光
を放出し続ける素材。都市
防災工学が専門の大野春雄
委員長は「高台に避難する
ための階段は命の道。暗闇
の中で必要となる機能を検
討することが重要だ」と話
した。

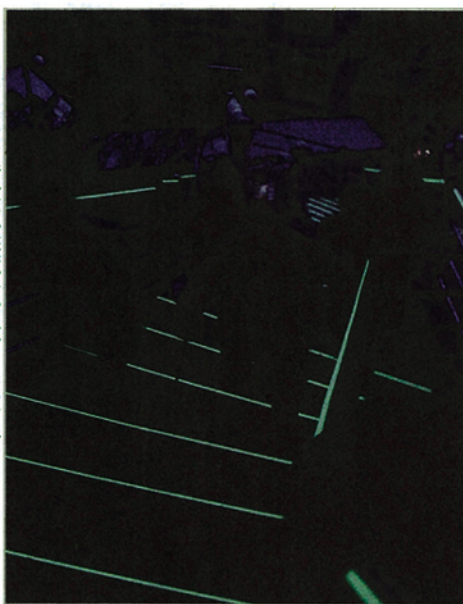
避難路を示す蓄光材検証

黒潮 土木学会と住民避難実験

昼間に蓄えた太陽光のエネルギーで夜に光る「蓄光材」が、夜間の津波発生時に有効かどうかを検証しようとして、土木学会が20日夜、黒潮町佐賀で住民ら約200人と避難実験を行った。南海トラフ巨大地震など災害時の停電対策として、同学会は、電力が不要な蓄光材を避難路に使うよう推奨。既に空港や駅などの誘導灯で実用化されている。屋外での効果を確認する実験は、昨年4月の静岡県吉田町に次いで2度目。

街路灯を消して停電を再現し、午後7時に実験を開始。5、6人ずつグループに分かれた参加者は懐中電灯を持たず、避難路では25分間隔で、階段では段差部分や手すりなどに取り付けられた蓄光材を頼りに、海拔21分の高台を目指した。

蓄光材を設置していない場所を設けたり、階段でも取り付ける位置を変えたりし、参加者は終了後、視認性や恐怖の度合いなどのアンケートに回答した。浜町霞さん(76)は「思っていたよりも明るかった。懐中電灯を失っても何とか避難できそうだ」と話していた。



階段の段差部分や手すりに取り付けられた蓄光材(黒潮町佐賀で)